

芦屋市立児童センター

夏休み映画会



日時：8月9日(木)

① 10:15～11:40



※10:00～(15分)平和の絵本読み聞かせ

② 14:15～15:40



※14:00～(15分)平和の絵本読み聞かせ

場所：上宮川文化センター・ホール

定員：150名

開場 30分前

芦屋市立児童センター(上宮川文化センター内) ☎ : 22-9229

夏休み映画会

長編アニメーション映画

かつ飛ばせ!

ドリマーズ

● かいせつ

日本の戦後は草野球と共にあった……と言っても過言ではないだろう。娯楽の少なかつた戦後の復興期に、復活したプロ野球はプロレスと並んで老いも若きも熱中した国民的スポーツであった。この時期、子どもたちは手づくりのグローブやミットを持ち寄って、キャッチボールに興じ試合に熱中しては、自らの将来をスターとして憧れるプロ野球選手の姿に重ねていた。そこには、どんな時代や環境にもかかわらず、子どもたちの、のびのびと健やかに成長していくたくまさが現われていたと言えるだろう。

これは、原爆で焦土と化したヒロシマの街を舞台に、白球に思いをこめて夢を追いかけた少年たちの、「ドリマーズ」というチームを通して築き上げた友情の物語である。

とりわけ日本で唯一の市民球団として発足した「広島カープ」の苦難の歴史を背景にとらえながら、この当時低迷する「広島カープ」を一生懸命に応援していた地元の子どもの純真な心を、兄弟との別れ、淡い初恋を交えた仲間との出会いと別れなど、感動に満ちたエピソードをちりばめ、情感豊かに描き上げた異色の長編アニメーションである。

原案は、人気のロング・ベストセラーとなっている劇画「はだしのゲン」の中沢啓治で、自身の少年時代の悲しみと喜びの入り交じった体験に基づきながら、被爆地ヒロシマからの新しいメッセージを現代の子どもたちに届けたいという思いを込めたオリジナルストーリーである。

脚本は、アニメ「はだしのゲン2」「がんばれタブチ君」などを手掛けたベテラン高屋敷英夫。監督は「ゲゲゲの鬼太郎」「YAWARA」など手掛けた兼森義則。この映画には特に熱い思いを寄せ監督にあたって

● ものがたり

1975年・中年の男達が野球の試合に興じている。この試合は25年ぶりに再会した元米軍チームと地元草野球チームの親善試合である。野球に熱中になるなかで男達の脳裏に懐かしい日々が熱い郷愁と共によみがえってくる……。

被爆から数年後のヒロシマ。野球に出かけようと張りきる少年達。彼らが向かうのは呉の米軍基地で、若い米兵たちとのいつもの試合が待ちかまえているのだ。少年たちにとって野球の試合が大きな楽しみであると同時に、その後もらえるご褒美のお菓子や食料品がお自当てである。とりわけ原爆で両親を失い、寝たきりの弟をかかえて自活する進にとっては、いまや不可欠の収入源だ。

野球好きの豆腐屋のおやじ伝造は、仕事そっちのけで少年たちの面倒をみている。東京から転校してきた陽子も進たちの仲間になり応援してくれている。皆にとって楽しく活気にあふれた毎日が続いていた……。

そんな時、広島にも市民の球団として「広島カープ」が結成される事になった。それからは「広島カープ」の動きに一喜一憂しながら、少年たちはチームの練習に励むのだった。

一方、進の弟(歩)の病状は悪くなり、いちどでいいから、あんちゃんどと野球をしてみたい……という言葉を最後に8才の短い人生を終えてしまう。寂しさをこらえきれない進は野球に集中できず、野球仲間の輪から飛び出してしまった。

そんな進を陽子や伝造そして野球仲間も気遣った。

進もそんな仲間の思いにこたえ、徐々に心を開きはじめた。そして豆腐屋の手伝いをはじめるとなったのだが……。

● 声の出演

大地 進 / 甲田 将樹
大地 歩 / 吉田 真吾
前田陽子 / 小山 裕香
川田 守 / 中島 誠
松島 弘 / 岡田 剛
神谷順二 / 九十九慧典
太田伝造 / 糸 博
マーク / 石川ひろあき
ジョー / 宮崎 一成

〈特別出演〉

川田浩一 / 風見しんご
太田光子 / 相原 勇

〈賛助出演〉

審 判 / 衣笠 祥雄
石本秀一 / 長谷川良平
アウンサー / 山中 善和

